ダイムラー
IMDSのMDSチェックに関する
サプライヤー向け情報
<table>
<thead>
<tr>
<th>コンポーネントおよび半製品の名称</th>
<th>21</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>IMDS コミッティが提供する材料</td>
<td>22</td>
</tr>
<tr>
<td>材料申告内容の完全性</td>
<td>23</td>
</tr>
<tr>
<td>材料の一括申告</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>1 グラム以下の質量を有する材料</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>その他の情報</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>材料に関する一般的なご質問</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>ダイムラーに関するご質問</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>IMDS に関するご質問</td>
<td>25</td>
</tr>
</tbody>
</table>
ダイムラーにおける IMDS データの自動チェック

ダイムラーは、Mercedes-Benz Special Terms (メルセデス・ベンツ取引条件) 13/16 および 36/07 で要求される IMDS マテリアルデータシート（MDS）の内容を正確に記入し、比較しやすい統一形式でこれを作成することをサプライヤー各社に要請します。これにより、複雑なモジュールおよび車両全体における MDS 評価、そして法的要件に従った付随証明書の作成が遂行されることになります。

現状では IMDS 入力ガイドラインがレコメンデーション（推奨事項）の中で様々に解釈されています。さらにレコメンデーションを読んでいない、理解していない、または実行していないという現状が生じています。このため、内部ツールおよびプロセスの基礎となるデータの品質を高レベルで維持するためには、ダイムラーへ送信される MDS をチェックすることが必要となります。

多数の MDS が送信されることから、常時繰り返される手順を自動化することが必要かつ重要です。自動チェックシステムによる品質の低下をできる限り回避するため、ダイムラーでは人による評価とチェックルーチンの自動化を採用しています。これにより、コンポーネントおよび材料、化学物質の複雑な組み合わせを顧慮し、標準外の材料も承認を受けることができるようになります。

本サプライヤー向け情報では、MDS を送信する皆様にダイムラーでの MDS チェックに関する詳細をお知らせしています。

自動MDSチェックの目的

- ダイムラーによる MDS の即時チェック（通常は 2 日以内）
- MDS 上の材料の評価方法をダイムラーの全工場で一貫化
- ダイムラーにおける MDS チェックの中で個々の材料特性のチェックにとる時間を拡大
- MDS チェックに関する複雑な質問へのサプライヤー向けサポートを向上

この方法によりそれぞれの材料をより正確にチェックすることができるようになります。つまり、2006 年 11 月以前に承認された材料であっても今日実施される徹底的なチェックの結果拒否されるという事態が生じることがあります。これは材料規格や材料番号の存在だけでなく、材料に応じてその他の記載内容の正確性に関してもチェックされることが理由となっています。さらに、英語またはドイツ語による材料名の入力漏れまたはミスの有無に関してもチェックされます。

通常は、2006 年 11 月以前に承認を受けた材料に関しても、その後に大きな相違が判明していない限り引き続き承認を受けることができます。化学物質の質量公差などにあらされる入力ガイドラインの変更は、承認をすでに受けた材料に関しては適用されません。このため、変更管理を内容とするレコメンデーション 022 を発行しています。

禁止物質および要申告物質等の法的変更、または ELV 指令の付録 II による変更等は例外とされます。
ダイムラー拒否コード
MDS が拒否された場合、該当材料および数もしくは複数の拒否/警告コードが記載されたリストが送付されます。材料名には MDS 上の英語表記内容の最初の 20 文字のみが使用されます。
拒否/警告コードのリストは IMDS の公式ページでご覧いただけます（「その他の情報」の章も参照してください）。ダイムラーへ MDS を再送信する前に、必ずここで指摘された材料に関する入力内容を修正してください。ここに記載されている全てのコードが拒否を意味するのではなく、警告を目的としているものもあるということにご注意ください。

ダイムラーへの MDS の送信
コンポーネント開発（プランク承認）のできるだけ早い時点、遅くとも生産部品承認プロセス（PPAP）の開始前に MDS を送信することが必要です。MDS のチェックにより設計プロセスが長引くことが考えられますので、送信の際には充分に時間を見積もりください。
MDS の送信は 2003 年以降要求事項となっています。このためダイムラーでは、これ以降の MDS の送信を要請する権利を留保しています。
他のモデルまたはその他の目的に使用されていた場合、キャリーオーバーコンポーネント（継続コンポーネント）は PPAP の一部となります。このため、サプライヤーはこの部品を対象として MDS を送信することが必要です。
MDS は生産部品承認プロセスを実施するダイムラー組織に送信してください。上位組織である Org. ID 101（ダイムラー AG）では MDS チェックを取り扱っていません。これは「Not in Service for MDS checking」と表示された組織でも同様です。
スペアパーツは「Global Logistic Center (ID 48847)」の中にのみ入力してください。ここでは ELV 指令に関するスペアパーツ特有の要求の考慮を可能としています。ダイムラーのその他すべての組織では厳しい量産コンポーネント向けガイドラインが定められています。
不明な点等がありましたら、IMDS 内で使用されている組織 ID に従い、ダイムラーの PPAP 担当者までお問い合わせください。
ダイムラー コンポーネントの MDS を公開しないでください！
ダイムラー 品番ごとにひとつの MDS-ID を使用してください。同じダイムラー 品番に対して MDS を再度送信する場合には、同じ MDS-ID の新バージョンを作成してください。MDS-ID の新作成はお避けください。
多数の同等または近似コンポーネントを異なるダイムラー 品番号で送信したい場合には、まず代表的な MDS を送信してください。この MDS がダイムラーから承認された後、その他の MDS もダイムラーへ送信してください。これにより、サプライヤーおよびダイムラーの両サイドで時間と無駄を省くことができます。
コンポーネントの質量が合意された質量公差外となった場合やコンポーネント内のひとつまたは複数の材料が変更となった場合、新規 MDS バージョンの再作成が必要となります（クロム（VI）フリー表面へのコンポーネント変更は材料変更となります）。
ダイムラーへ送信されたデータシートはすべて転送許可扱いとなります。

ダイムラーにおける IMDS 組織
MDS は PPAP 担当者に従って以下のダイムラー組織のみ送信してください。

<table>
<thead>
<tr>
<th>IMDS Organization-Unit</th>
<th>ID</th>
<th>zip code</th>
<th>City</th>
<th>Country</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Sindelfingen Plant (050)</td>
<td>8133</td>
<td>71068</td>
<td>Sindelfingen</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Stuttgart-Untertuerkheim Plant (010)</td>
<td>8134</td>
<td>70546</td>
<td>Stuttgart-Untertuerkheim</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Berlin Plant (040)</td>
<td>82093</td>
<td>12277</td>
<td>Berlin-Marientheide</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Gaggenau Plant (024/030/034)</td>
<td>8294</td>
<td>76568</td>
<td>Gaggenau</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Hamburg Plant (068)</td>
<td>8295</td>
<td>21079</td>
<td>Hamburg-Harburg</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Kassel Plant (069)</td>
<td>8296</td>
<td>34127</td>
<td>Kassel</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Ludwigsfelde Plant (037)</td>
<td>8297</td>
<td>14974</td>
<td>Ludwigspfelde</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Woerth Plant (060)</td>
<td>8299</td>
<td>76744</td>
<td>Woerth</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-AMG GmbH (Plant 001)</td>
<td>11274</td>
<td>71561</td>
<td>Affalterbach</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Duesseldorf Plant (065)</td>
<td>12538</td>
<td>40476</td>
<td>Dusseldorf</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>smart France S.A.S. (117)</td>
<td>12591</td>
<td>57913</td>
<td>Hamburg</td>
<td>FR</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Bremen Plant (067)</td>
<td>15423</td>
<td>28309</td>
<td>Bremen</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>MDC Power GmbH (Plant 516)</td>
<td>30643</td>
<td>99625</td>
<td>Koellela</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>DaimlerChrysler do Brasil Ltda. Plant (154)</td>
<td>45813</td>
<td>09680-900</td>
<td>São Bernardo do Campo</td>
<td>BR</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Rastatt Plant (054)</td>
<td>48846</td>
<td>76437</td>
<td>Rastatt</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Global Logistic Center (Plant 006)</td>
<td>48847</td>
<td>76726</td>
<td>Germersheim</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz East London Plant (175)</td>
<td>48848</td>
<td>5200</td>
<td>East London</td>
<td>ZA</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Mannheim Plant (020)</td>
<td>51580</td>
<td>68305</td>
<td>Mannheim</td>
<td>DE</td>
</tr>
<tr>
<td>DaimlerChrysler España S.A. Vitoria Plant (157)</td>
<td>59053</td>
<td>01010</td>
<td>Vitoria</td>
<td>ES</td>
</tr>
<tr>
<td>McLaren Group Limited (Plant 115)</td>
<td>57650</td>
<td>GU21 4 Woking</td>
<td>Woking</td>
<td>UK</td>
</tr>
<tr>
<td>Mercedes-Benz Juiz de Fora Plant (154)</td>
<td>72763</td>
<td>36092-900</td>
<td>Juiz de Fora</td>
<td>BR</td>
</tr>
</tbody>
</table>

IMDS へのコンポーネント MDS
IMDS 上で新規コンポーネントを作成するか、以前のサプライヤーのコンポーネントを適用してください。これにより、IMDS レコメンデーションが維持されることが必要です。システム上に既存の材料（特に IMDS コミッティが提供する材料）はコピーしないでください。これらの材料は常時優先的にかつそのまま使用してください。
MDS 送信先情報
以下の欄に完全に記入してから、MDS をダイムラーへ送信してください。
自動チェックルーチンに関する注意

ダイムラー部品番号（拒否コード A001）
サプライヤー社内の部品番号ではなく、ダイムラー部品番号を入力してください。
ダイムラー部品番号は 1〜3 個のアルファベット文字で始まります。設計コンポーネントの場合にはその後ろに 10 桁の数字が続き（A 123 456 78 90）、規格コンポーネントの場合には 12 桁の数字が続きます（N 123456789012）。
ダイムラー部品番号が正確に入力されていないと、ダイムラーのチェックシステム上でパーツリスト上の部品番号の認識が行えません。これがエラーメッセージまたは自動的拒否の原因となります。
補足コードなどを記入せずにダイムラー部品番号のみを入力してください。
コンポーネント MDS または半製品 MDS のみをダイムラーに送信してください。ダイムラーのチェックシステムでは材料 MDS の管理を行いません。

ダイムラー・サプライヤーコード（拒否コード A002）
ダイムラー・サプライヤーコードを入力してください。
サプライヤーコードは 8桁の数字で構成されています。ここでは空白文字や特殊文字は使用できません。
Mercedes-AMG へのコンポーネント納入もダイムラーのチェックシステムで管理していますので、この場合にも同じく8桁のダイムラー・サプライヤーコードを使用してください。
DUNS コードは使用しないでください。

補足コードおよび様々な色のコンポーネント
補足コード用として特に情報が提供されていない場合には、Supplementary code（補足コード）1 および 2 の欄に何らかの情報（“0”や“X”）を追加入力しないでください。
ダイムラーへ様々な色のコンポーネントを納入している場合、全色のうちから一色を選び一件の MDS を送信するだけで充分です（この際、Supplementary code（補足コード）2 は入力不要です）。ただしこれは、何らかの色の部品に限って禁止物質または要申告物質が使用されていたり、材料特性が指定中の特性公差を上回っていたりする場合には適用されません。

コンポーネント上で使用する材料のバリエーション
納入されるコンポーネントの中で様々なメーカーの材料を使用している場合、全メーカーの材料の中からひとつを選んで一件のデータを入力してください。不明な点等がありましたら、ダイムラーのPPAP担当者にお問い合わせください。
ワイルドカードの使用（拒否コード A007）

ワイルドカードは未定義の化学物質に対するプレースホルダーです。IMDS 上では様々なフィールド（CAS No.など）に「system」という言葉が使用されています。

それぞれの均質材料の中に 10%以下の割合で含有されている物質はワイルドカードとして“隠す”ことが可能です。ただし、禁止物質または要申告物質はここで“隠す”ことはできません。

機密扱いとなっている物質もワイルドカードの対象となります。ワイルドカードの使用された物質に関しては、ダイムラー側で承認された人物（サプライヤー）のみに閲覧が許可されます。ただし、機密扱いとなっている物質が要申告物質または禁止物質である場合、IMDS 上ではサプライヤーおよびダイムラー両者の全ユーザーに開示されます。

！これは他のワイルドカードには適用されません。このため、それぞれのサプライヤーはワイルドカードを含む材料が最新の法的規制に準じているかを定期的にチェックする必要があります。

質量公差（拒否コード A008）

質量公差（限界値はレコメンデーション参照）はチェックツールにより監視され、相違が判明した場合には拒否されます。

ただし、材料規格や DBL で相違が認められている材料に関しては、材料評価の際にこれを考慮することが可能です。この他にも指定公差に従えない正当な理由がある場合には、それぞれのケースに応じてダイムラー側に交渉し、場合によっては承認を受けることも可能です。
削除された物質（拒否コード A009）

削除された材料および物質はダイムラーのチェックシステムで検知され、チェック担当者に提示されます。ただし、削除された材料および物質としてここで表示される物質のすべての MDS が拒否されるわけではありません。多くの MDS は以前にシステム上に存在した物質で作成されており、その後も有効とされています。ただし、何らかの物質が上位概念や物質群を表し、要申告物質でないことが特に明示されていないと、この物質は拒否されます。

例:

Amount of pigment （顔料成分）
（詳細定義なし）
Preservative（保存料)
Cannot currently be answered （現在は対応不可能）
Query/Hg/Cr6/Cd/Pb （問い合わせ/Hg/Cr6/Cd/Pb）
Other admixtures （その他の混入物）
Dye （着色料）

その他の物質にも影響をおよぼしますので、ご使用になる材料とその記入内容に注意してください。

構造エラー（拒否コード A010）

Recommendation 001 に記載中の構造エラーは拒否されます。

悪い例：
禁止物質に関する注意

ELV指令の付録IIに従ったチェック（拒否コードELV001/3/4）
その他の法的要求への適合性チェックとは関係なく、ELV指令の中で禁止されている含有物質はすべてチェックされます。
使用中の物質に違ったアプリケーションコードを割り当てると、この物質は拒否されます。

アプリケーションコード（ELV002）
アプリケーションコードは材料に割り当てられますが、コンポーネントに割り当てられることも頻繁にあります。主要材料のアプリケーションコードに関しては以下の入力限界値に注意してください。

最高濃度
鉛、カドミウムが質量の0.1%以下、水銀が質量の0.01%以下となる場合のアプリケーションコードは、常に以下の通りです。

旧コード: “Impurity (not intentionally added)”
新コード: “Concentration within acceptable GADSL limits”
これら両方のアプリケーションコードが承認されます。

鉄鋼
質量の0.1 < x ≤ 0.35%の鉛を含む加工用鉄鋼:
“Alloying element in steel for machining purposes or galvanised steel”

アルミニウム
質量の0.1 < x ≤ 1.5%の鉛を含む加工用アルミニウム: （2008年7月1日以降
質量中鉛 0.1 < x ≤ 0.4%）
“Alloying element in aluminium for machining purposes”

銅
質量の0.1 < x ≤ 4%の鉛を含む銅材料
“Alloying element in copper”

はんだ材料
上記の限界値を超える鉛量を含有するはんだ材料:
“Solder in electronic circuit boards and other electric applications”

ガラスまたはセラミック材料内の鉛および鉛合成品
“Electrical components which contain lead in a glass or ceramic matrix compound except glass in bulbs and glaze of spark plugs”

何らかのコンポーネントにアプリケーションコードが割り当てられると、必ずそれぞれのコードがチェックされます。

DBL 8585 に従ったチェック

材料中に DBL 8585 に記載された物質が含まれている場合、それぞれの含有量制限が維持されているかがチェックされます。許容限界値を超えた場合、MDS は拒否されます。DBL 8585 には GADSL リストが含まれます。

材料および物質の申告にあたっての注意

材料名（拒否コード G001）

材料名はひとつの材料に割り当てる必要があります。ダイムラー AG へは多数のデータセットが送信されることから、この点は厳重に注意してください。 "Name (EN)" および "Name (DE)" の両方のフィールドに材料名を正確に記入することが必要です。

特に材料名の英語記入欄には英語で記入してください。金属加工分野などの標準材料が使用されている場合、それぞれの規格で定められた名称を使用してください。補足名称は商品名の欄に記入することが可能です。
悪い例：未完全な材料名

以下では材料の認識や割り当てが困難または不可能な材料名の例をあげています。

悪い例:
- Mix
- Carrier fabric5
- FLEECE
- 5779
- Rhenus Norplex ELV 2
- VAL013V, Fr-4
- Outer layer PD2204
- TS 3528
- SGW
- Surface (Shield) Q
- Plastic
- Coating
- Alloy 151
- FXD6A
- E110
- 2LL9120000

規格外の材料名の場合には、その材料を明確に表す名称を記入してください。つまりある接着剤の材料名には“adhesive”、“bonding agent”や“glue”などの用語が使用されることが必要です。同様に塗料には”lacquer”や”paint”もしくはこれに近似した明確な用語を使用してください。団体名称は後に追加するか、「商品名(trade names)」の欄に記入してください。

これを怠ると、即時の認識が不可能となります。材料名の英語入力欄には英語名を記入してください。

材料分類（拒否コード G002）

材料分類は、使用目的ではなく材料の種類に従って選択してください。このため、例えば電気亜鉛メッキは保存用として使用されますが、この材料は「亜鉛合金」として分類されます。

熱可塑性樹脂の場合には、「フィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂」か「フィラー（充填材）を含有しない熱可塑性樹脂」のいずれかに分類してください。複合材には通常複数の材料が含まれ、これらの個々の均質材料を記入することが必要となることから、「高分子複合材に含まれる合成樹脂」という分類はお避けください。同様に「熱可塑性樹脂」という分類もお避けください。
材料規格（G003）
材料の化学物質について定める、国際的に有効な最新の材料規格を使用してください。物理的材料特性に関する規格は、材料の化学情報データベースとなるIMDSの中では関係ありません。
フィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂、フィラー（充填材）を含有しない熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、エラストマーおよび熱可塑性エラストマーに関する材料規格はここでは要求されません。

商品名（G004）
商品名は材料名の欄ではなく、「商品名（trade names）」の欄に記入してください。
商品名の記入はダイムラーが要求するものではありません。このため、これは材料の拒否につながるものではありません。

社内規格（拒否コード G005）
現在、記入は不要です。

材料サプライヤー（拒否コード G006）
現在、記入は不要です。

物質リストのチェック（拒否コード G008）
材料に含まれる物質のリストは材料専門の担当者がチェックします。チェック結果は材料データベースへ送られ、同じ材料が再報告された場合に自動的に認識されます。報告内容が該当材料内の物質に関する既存データに一致しない場合、この材料は拒否されます。

元素分析形式による材料報告（拒否コード G009）
材料およびその物質は、コンポーネントの中で認識できるように入力してください。
このため金属以外の材料では、元素分析を物質リストとして入力することはできません。

悪い例：元素レベルでの物質の記入（元素分析）は容認されません。
溶剤（拒否コード G010）
溶剤は様々な材料の製造に重要な役割を果たします。通常、完成した車両内では溶剤は微量に残っている程度であるか、または全く確認されません。このため、溶剤を大量に使用する材料は拒否されます。
悪い例：

アウトプットまたは生産プロセス材の詳細（拒否コード G011）
材料の物質として報告される内容は実際のコンポーネント内の材料状況と同等であることが必要です。このため、アウトプット品を材料製造用として入力することは容認されません。
悪い例： epsilon-Caprolactam はポリアミドのベースとなりますが、コンポーネント内のポリアミドには epsilon-Caprolactam は含まれません。
微量の Epsilon-Caprolactam は合成樹脂の特性を決定します。このためこの量であれば承認されます。

ディスクレーマー（拒否コード G014）
MDS としてのディスクレーマーの記入は容認されないことから、拒否につながります。備考欄は材料に関係する追加情報のみに使用できます。

悪い例：
フラット構造は、存在しない構造や材料分類をまとめたもの等と同等には取り扱われません。コンポーネントはフラット構造で表示することが可能です。この際には、すべてのコンポーネントをそれぞれの材料とともに報告することが必要です。この場合、これらのセミコンポーネントの上位コンポーネントへの属性を示す必要はありません。ただし、それぞれのコンポーネント（ネジやホルダー等）への材料の属性はわかるようにしておく必要があります。

フラット構造 ➔ 容認されます
構造なし ➔ 容認されません

<table>
<thead>
<tr>
<th><strong>DCV211MOFF ST-h ECE PTS Classic Keyless-Go, objid</strong></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
</tr>
</tbody>
</table>
その他のエラー（拒否コード G016）
拒否コードリストに表示されていないエラーが発生した場合、拒否コード G016 が出されます。さらに発生中の問題の詳細が指摘されます（個別記述）。

不要な材料レベル（拒否コード G017）
自動評価には常に最上位の材料レベルが考慮されることから、データ計算時にエラー発生の原因となる不要な材料レベルは承認されません。この場合、半製品レベルまたはコンポーネントレベルを使用してください。

悪い例：
良い例：

IMDS プロトタイプ（拒否コード G018）
ダイムラーでは IMDS プロトタイプをサプライヤーに要求していません。このためコンポーネントをプロトタイプ材料とともに、または開発 PPAP 用 MDS として入力しないでください。
合成樹脂およびエラストマーの材料記号（拒否コード P001）

フィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂、フィラー（充填材）を含有しない熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、エラストマーおよび熱可塑性エラストマーに関する材料記号は、該当する材料分類の材料規格に従って「記号（Symbol）」の欄に入力してください。

材料規格：

フィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂、フィラー（充填材）を含有しない熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂：ISO 1043 (パート 1 ~ 4)
エラストマー：ISO 1629
熱可塑性エラストマー：ISO 18064

熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、エラストマーおよび熱可塑性エラストマー
合成樹脂およびエラストマーは IMDS 内のスクロールダウンメニューで入力でき、以前より簡単に行えるようになっています。

例：材料名、記号および分類の入力エラー

悪い例：
フィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、エラストマーおよび熱可塑性エラストマー
石灰、硫酸バリウム、二酸化チタン等（ISO 1043-2 のリスト参照）が 5% 以上含有されることを申告する際には、ダイムラーではフィラー（充填材）とみなされます。この場合、該当する材料はフィラー（充填材）を含有する熱可塑性樹脂として分類し、相応の記号を入力することが必要です。着色用顔料として微量に使用されるカーボンブラックや二酸化チタン等の物質についても、濃度が 5% を超える場合にはフィラー（充填材）とみなされます。
着色された熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、エラストマーおよび熱可塑性エラストマー

着色された合成樹脂およびエラストマーは顔料を含有する材料として入力するか、
Rec. 010 の指示に従って複数の材料として入力することが必要です。この場合、上
位材料レベルの入力内容がチェックされます。これにより、例えば材料全体として
ワイルドカード用の限界値が維持されている場合には、マスターバッチ内の顔料含
有量が従来適用されている限界値（10％）を明らかに上回ることになります。

良い例：材料がベース材料およびマスターバッチで構成されている

悪い例：
材料番号および材料規格（拒否コード M001 および M002）

材料番号はすべての金属に対して入力してください。材料番号には、その材料番号に属する材料規格も含まれます。金属の化学成分にもとづいた材料規格を入力してください。

ここでは、物理的量や試験方法等を定める規格は関係ありません。入力した材料番号と材料規格にとづき物質がチェックされます。国際的に有効な最新の材料番号および材料規格を使用してください。

IMDS コミッティが提供する材料は通常承認されますので、これらの材料を優先的に使用してください。これらの材料は、IMDS 組織 ID 313、423、18986 に記載されています。その他の検索用語に関しては、IMDS 内の FAQ にあるファイルをご覧ください。

標準外の材料の場合には、備考欄に相応の内容（特殊グレード等）を記載してください。これにより材料番号および材料規格を入力しなくても材料の承認を受けることができるようになります。

プロセス材および資材

コンポーネントを短期的に保護する目的で、または運搬時に使用されるワックスや保護フィルム等の最終的には車両内に残らない材料およびコンポーネント、または最終的にコンポーネント上に残らない生産プロセス材等は車両構成要素としてみなされないことから、申告の必要はありません。

コンポーネントおよび半製品の名称

サプライヤーの皆様には、明確なコンポーネント名の使用が望まれます。可能な限り図面上で使用しているコンポーネント名を使用してください。

アプリケーションコードのつけられた要申告物質では、明確なコンポーネント名が記載されていないと正当性チェックが不可能となります。これはコンポーネントの拒否につながります。

悪い例：不十分なコンポーネント名


IMDSコミッティが提供する材料

IMDSコミッティが提供する材料を優先的に使用してください。

IMDSコミッティが提供する材料は、ELV指令やその他の物質使用禁止に反していない限り通常承認されます（認められない材料はIMDSコミッティに申告し、記載内容を修正する必要があります）。

IMDSコミッティが提供する材料は組織ID313（鉄鋼リスト）、423（IMDS-Committee）、18986（IMDS-Committee/ILI）でご覧いただけます。ここでは公開中の材料を使用すると、質量公差やワイルドカードの割合が入力ガイドラインで指定された値を上回ることがあります。このMDSをコピーし、新たに名前を付けてコンポーネント内で適用する場合には、IMDSレコメンデーションを留意してください。

この際には、「IMDS Committee's standard materials（IMDSコミッティの標準材料）」ファイルをダウンロードしてください。

Frequently Asked Questions:

[08.11.2005]
How can I find standard materials in IMDS published by the IMDS Steering Committee?

You can find the standard materials by using the Search for published material MDSs. Limiting the search results is possible by putting in the name of the Supplier "IMDS-Committee" (IMDS Comp. ID: 423) and/or the respective norm for the standard material. An overview on the materials and norms available can be found here for download: Standard materials of the IMDS Steering Committee
材料申告内容の完全性
すべての材料を申告してください。
サプライヤーの皆様には、使用中の材料すべてを完全に入力する責任が課されています。MDS 上での申告内容が未完全であることが後日判明した場合、サプライヤーの皆様にはすでに承認を受けた MDS に関しても修正を行い、不足情報を補足する義務が課されます。

悪い例：電気亜鉛メッキに関する申告内容の不足
材料の一括申告
異なる材料を一括しないでください。

例：電解処理表面は、ベース材料および有機表面処理とともにひとつの材料としてまとめることはできません。

悪い例：
良い例：

1グラム以下の質量を有する材料
多くの材料は微量の質量を有しています（数ミリグラムという材料も頻繁にあります）。これらの材料はワイルドカードおよび公差のチェック対象とはなりません。その他すべてのチェック基準が満たされていない場合には、引き続き拒否につながります。
その他の情報

材料に関する一般的なご質問
材料に関するお問い合わせは、各ユーザーヘルプデスクを通じて ED5 材料専門担当者までご相談ください。ここでは IMDS にない標準材料の入力も行っていただけます。IMDS コミッティが提供する材料に関連があることが判明した場合にも、ED5 のユーザーヘルプデスクまでご連絡ください。

ダイムラーに関するご質問
ダイムラーに関するご質問はメールアドレス：imd5@daimler.comまでお問い合わせください。この際、必ず該当する MDS の MDS-ID とご自身の連絡先情報を記載してください。
ダイムラー拒否コードのリストは IMDS の公式ページの「FAQ」でご覧いただけます。ここで質問カテゴリ「OEM Specific Info (OEM 特殊情報)」を選び、「Go」をクリックしてください。この際、常に最新バージョンを使用するようにしてください。
IMDS の公式ウェブサイトにある FAQ やその他の項目の情報を活用してください。

ダイムラー納入規定 8585 (DBL 8585)「Negative substance list for the selection of materials (材料選択にあたってのネガティブ物質リスト)」はダイムラーのサプライヤー向けポータルでご入手いただけます。最新発行版には多少の例外を除いて現行 GADSL リストおよびその他の重要情報が記載されています。

GADSL リスト（Global Automotive Declarable Substance List）はインターネットサイト：www.gadsl.orgでご入手いただけます。このリストには自動車産業分野で指定されている要申告物質や禁止物質が記載されています。

IMDS に関するご質問
システムへの登録を行うと、IMDS レコメンデーションが「Recommendations」の項目の左側でご覧いただけるようになります。常に最新バージョンを入手するように注意してください。
同じくシステムへの登録後、クエスチョンマーク（ヘルプ）の下の最上バー内で EDS トレーニング資料が入手できるようになります。ハンドブック上での使用言語はご使用中のブラウザの言語設定に応じます。
システムの取扱や材料をテーマとした IMDS トレーニングを是非ご利用ください。

ダイムラー IMDS チーム一同